

幼稚園の畑から

瀧川 小弓

先日、盤溪にも雪の便りが届き、早くも子どもたちは雪合戦や雪だるま作りを楽しみました。雪が降る前の日には、有志のお母さまが植えてくださった大根やホウレン草、春菊、冬菜、カブなどを収穫し、今年最後の畑の野菜を皆で分けて持ち帰りました。

今年の畑には、赤組がジャガイモやカボチャ、緑組は枝豆やトウモロコシ、青組は大根とキュウリやトマト、その他にも人参、玉葱、インゲン豆や小豆、ズッキーニ、オクラ、スイカ、青シソなどが植えられ、たくさんの野菜が畑を彩りました。子どもたちも野菜に水をあげたり草取りをしたりしながらいろいろな野菜の生長に触れました。植えた野菜はそれぞれ小ぶりだったり、収穫量が少なかったり、動物に食べられたりしましたが、子どもたちの手で収穫し旬の採れたての野菜を皆でおいしく味わうことができました。

“秋覚の日”には保護者の皆様にも参加していただき、子どもと一緒に収穫の体験をしたり、子どもたちが作ったカレーを皆で食べたりしました。秋覚の日の年長の子どもたちが作ったカレーの味は格別で、毎年「おかわり〜！」の嵐です。野菜やカレーが苦手な子が自分の手で収穫し、自分の手で調理すると、食べてみようとかんばったり、好きになったりする姿も見られるから不思議です。

生きることの原点“食べること”を幼稚園の畑を通して考えると、①自分たちの手で育てた野菜を食べてみる ②旬の採れたての野菜を味わう ③みんなで一緒に楽しく食べる ことが子どもたちの食を育てていると感じます。

幼稚園の畑は“食べること”を育むだけでなく、虫捕りやお料理ごっこをすることができる、子どもたちの“遊びの場（学ぶ場）”にしたいと考えています。畑の傍らにお花やハーブを植え、子どもたちが摘んで遊びに使えるようにしています。また、今年から畑の物置の側に大きなテーブルを置いて、摘んだお花で花束を作ったり、色水遊びや叩き染めをしたり、子どもたちが自由に使える場を設けました。テーブルがあることによって、自分たちで必要な道具を準備し継続して遊ぶ姿が見られます。また、年長児が遊んでいると年中・年少児も参加して、子どもたちが教え合ったり、見て真似たりして遊んでいます。

今年の畑は、野菜もお花もすべて摘み取り、肥料をいれて耕してもらっているところです。そこへ雪が積もると、また子どもたちを楽しませてくれる場所になります。

寒い日も暑い日も畑の世話をしてくださった方々、“秋覚の日”にお手伝いいただいたお母さま方にこの紙面をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。